

「モリショウ」(日田)がグランプリ

地元間伐材で発電、山林保全活動…

脱炭素チャレンジカップ 2021



日田市天瀬町の木質バイオマス発電所

地球温暖化防止への取り組みを競う「脱炭素チャレンジカップ2021」(環境省後援)で、木質バイオマス発

電などを行う日田市の「モリショウ」グループが、最高賞の環境大臣賞グランプリを受賞した。地域の間伐材などを利用した再生可能エネルギー発電による電力の地産地消モデルの実践や、山林の保全活動などが評価された。

チャレンジカップは2011年から9回開催された「低炭素杯」が前身で、一般社団法人地球温暖化防止全国ネットを事務局に2回目の開催。「市民」「企業・自治体」「学生」「ジュニア・キッズ」の4部門があり、今回は全国から144団体の応募があった。モリショウグループは、木質バイオマス発電を行う「グリーン発電大分」や、

電力小売り会社「日田グリーン電力」など4社で構成。50㌔圏内から集めた間伐材や放置された林地残材をチップ化し、13年から日田市天瀬町の発電所の燃料として活用している。出力は約5700㌔(約1万世帯分)で、市内の小中学校など公共施設のほか一般企業や民家に供給している。間伐材などは、林業者などでつくる日田木質資源有

効利用協議会から購入し、地元の林業経営の安定化を支援。発電所の熱源も一部有効利用し、温排水を近隣のイチゴ生産ハウスに供給している。さらに将来にわたって地域の自然環境を守るために山林も買い進めており、苗木の生産や植林なども手掛けている。グループ会社・モリショウの河野昌平経営企画部長は「日田の特性である林業を、地球環境に負担を掛けず守っていく姿勢が認められたと思う。受賞が再生エネルギー電力の普及につながればうれしい」と話している。

今回のチャレンジカップはファイナリストに選ばれた28団体が、9日にオンラ

インで取り組みを発表し、審査が行われた。県内からは玖珠町の玖珠美山高地域産業科の「チーム野菜も、学生部門ファイナリスト(8団体)に選ばれ、協賛企業特別賞を受賞した。(吉田賢治)

OITA・HITAKUSU
大分・日田玖珠

購読申し込み・配達は
0120-44-0120
(午前6時～午後8時)

大分総局

〒870-0034
大分市都町1-1-23
TKフロンティアビル
5階 ☎097(536)0111
FAX 0112

✉ oita@nishinippon-np.jp

日田支局

〒877-0011
日田市中城町1-66
☎0973(23)5177
FAX 5178

✉ hita@nishinippon-np.jp

宇佐中津支局

〒879-0444
宇佐市石田73-1
☎0978(32)0538
FAX 0682

2021年2月21日 (月)
西日本新聞 16面
(大分・日田玖珠)